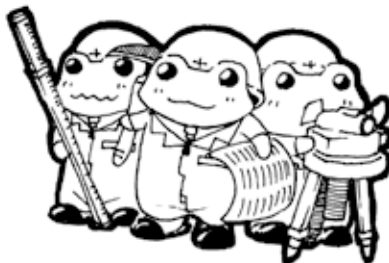


いわかげ

— No. 115 2008, 8, 25

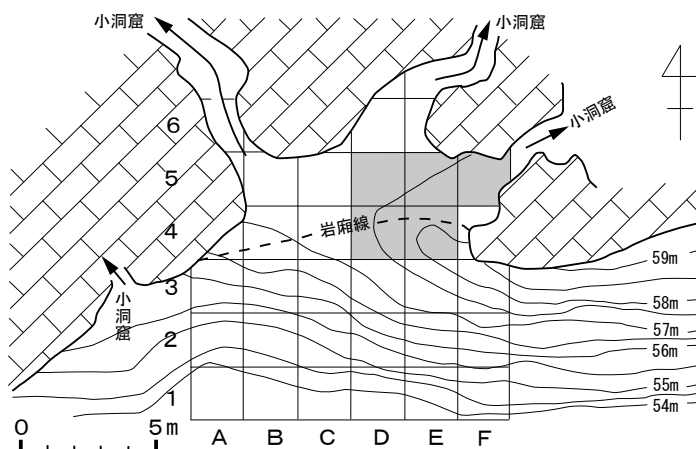
広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室



2008年度 帝釈峡遺跡群・庄原市佐田峠墳墓群発掘調査 II期(8月18日～24日)

帝釈大風呂洞窟遺跡第13次調査

大風呂洞窟遺跡は広島県神石郡神石高原町永野字大風呂に所在する岩陰遺跡であり、直下には帝釈峡を代表する遺跡である観音堂洞窟遺跡が存在します。大風呂遺跡は帝釈川の支流である岩屋谷川の左岸に位置し、標高は約460m、川からの高さは約57mです。洞窟の規模は間口幅約11m



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

(網掛け部が今年度の調査予定範囲)

で、奥行は約4m、岩廂までの高さは3～3.5mであり、平坦な部分の広さは約40㎡あります。遺跡は南側に開口しており、日当たりのよい住みやすい環境であったと思われます。本遺跡は前年度までの調査で縄文時代草創期～早期から中世にかけて断続的に使用されていたことが分かっています。

今期間では前期間に引き続き縄文遺物包含層である第三層の掘り下げを主に行いました。この第三層は縄文時代後期～前期にあたる層です。調査の結果、小動物のものと思われる多数の小骨片や、マジミなどの食料残滓(ごんし)が出土しています。また、D-5区では、第3層から今のところ少なくとも4ヶ所で焼土面が見つかっており、D・E-5区からは土坑(地面に掘り込まれた穴。性格については調査中です。)が見つかるなど、大風呂遺跡の当時の利用方法が徐々に解明されつつあります。

また今期8月21日の調査では、神石高原町の子供たち14名が参加した発掘体験会

を行ないました。掘り出した土をふるいで水洗いして遺物を探す水選作業体験に参加した子供たちは、一生懸命にふるいを動かし遺物を発見しようと意気込んでいました。その結果多数の貝片や骨片が発見され、子供たちにとっても学びのあるよい時間を過ごしてもらえたかと思います。

今期の発掘では生活遺物である土器片が出土しておらず、これまでの調査で土器片などが出土している西半部分との関係が課題として残りました。続く第三期では、この課題を解決すべく、引き続き土器類の発見を目標に発掘を行なっていきたいと思えます。

(3年 板木達也)

コラム1 初めての発掘生活

帝釈峡での発掘生活は私

に多くの学びの機会を与えてくれた。発掘第Ⅱ期は帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘に参加しました。帝釈峡での洞窟発掘は私にとって非常に興味のあるものでした。この遺跡は今縄文時代の層での調査を行っており、土層の掘り下げなどの作業は慎重さを必要としており大変に勉強になりました。大



風呂遺跡では主に土坑の調査をしました。少しずつ掘り下げ土坑の広がりを確認するという貴重な経験をしました。また発掘だけでなく、宿舎での共同生活は、先輩から色々なことを学ぶ場としてや発掘に集中できる場としてとても素晴らしい環境でした。この経験は、これから考古学を学んでいくことに大きな糧となりました。発掘生活はまだ続くので、まだまだたくさんの事を学んでいきたいと思えます。(2年 今福拓哉)

コラム2 帝釈峡が教えてくれたこと

帝釈での生活で私はいろいろな経験をする事ができた。初めての発掘、テレビでドキュメンタリーになっている大家族以上の集団生活、なにもかもが新鮮なものだった。しかし、私が最も嬉しかったことは大自然の中で生活する事ができたことだ。こんなにも自然が残っている場所が意外に身近なところにあるのだなあ、としみじみと感じた。虫の声、川の流れる音、風に揺れる木々の葉が奏でるハーモニーは私の第6感に語りかけるものがあった。しかし、いいことばかりではない。曇りだと洗濯物が乾きにくい、雨が降れば発掘調査に支障が生じるなど、自然が持つ厳しさも経験した。この帝釈の大自然には毎日々一喜一憂させられた。自然が人間生活に及ぼす影響はやはり多大なものがある、ということを改めて認識する事ができた発掘第Ⅱ期だった。



(2年 野村友規)

きた だおふんぼぐん 佐田峠墳墓群

佐田峠墳墓群C地区3号墓におけるⅡ期の調査では、Ⅰ期で発見できなかった墓壙の検出——どれくらいの大きさの墓が、どこにいくつあるのか——そして墳墓全体の規模はどれくらいなのか、それを確認することを目標としました。

Ⅰ期に引き続いて、aトレンチ(中央の調査区)の土を徐々に剥ぎ取っていったところ、まず調査区の西側から2つ、続いて東側でも1つの墓壙が発見されました。



最初に見つけた墓壙は、調査区西半のほぼ中央に位置するもので、長さ約3m、最大幅約1mと佐田峠3号墓が属すると思われる弥生時代中期後半のものとしては類を見ないほど大きく、またⅠ期の調査時にはこの上層から丁寧に作りこまれた土器が出土していることから、被葬者はかなり地位の高い人物であったと考えられます。また、現在この墓壙には棺の痕跡らしきものも見えており、この観察から木棺が埋葬に使用

されたであろうことが分かってきました。ところで、この墓壙には一つ、直径約 50cm の円形の掘り込みがかかっています。これは幼児の骨を埋葬したもの（お墓）か、もしくは被葬者の埋葬の儀式の際に立てられた柱に由来する穴（柱穴）のどちらかであろうと考えられていますが、現状では判断が難しく、さらに調査が必要です。3つの墓壙が形成された順番としては、この一番大きな墓壙が最初で、以下、東側へ行くほど新しい墓壙であると推定しています。

調査期間の後半では、墳墓の規模を確認するために、墳墓の裾と思われる部分を掘り込み、墳墓の裾と墓の表面を飾る貼石を検出しました。貼石は小さなものはソフトボール大、大きなものでは座布団ほどの大きさにもなります。8月22日には庄原市子ども文化財探検隊にも貼石検出の調査に参加してもらい、結果として墳墓の規模は長さ約 15 m、幅約 8 m と判断することができました。また、四隅突出型墳丘墓の一番の特徴である突出部の検出も行いました。残念ながら突出部の先端となる石は検出されませんでした。そもそも存在しなかったのか、それとも長い年月の間に削れてしまったのか、それはこれから考えていかねばなりません。それでも一隅の大まかな形の検出には成功し、一つの成果となりました。

以上のように、このⅡ期の調査期間中に墳墓の規模と、墓壙の数を知ることができたのは、佐田峠墳墓群の発掘調査における大きな一歩です。Ⅲ期の発掘調査ではこれらの事実を踏まえた上で、より深い墳墓の全体像——被葬者の性格や周辺の墳丘墓との関係——を探っていきたいと思います。（3年 横山瑛一）

追記

8月24日に広島県立歴史民俗資料館（三次風土記の丘）の伊藤実氏に佐田峠墳墓群C地区3号墓出土の土器についての御教授を賜り、これらの土器が私たちが想定していた時期よりも少し新しい時期のものであることが判明しました。この為、墳墓の時期も少し新しい「弥生時代中期末」のものである可能性が高まりました。詳細は次号の「いわかげ」に掲載致します。

コラム3 初めての発掘調査

お盆が終わると僕の初めての発掘調査が始まりました。小学校の頃から想像しかできなかった発掘を実際に行うことになり、期待も大きかったです。不安もあり、緊張していました。発掘が始まると緊張も和らぐだろうと思っていましたが、いざ発掘を始めると、遺跡・遺構は一度壊してしまうと元に戻らないという怖さから、ちょびちょびとしか仕事を行なえず、発掘の困難さを実感し、自分の無力さを知りました。期限内に調査をやり終えるためには、大胆さも必要であり、全体を見て慎重になる必要もあることがよくわかり勉強になりました。これからはこの経験を活かしていこうと思います。毎日疲れて帰ってきても、宿舎のまわりの環境はよく、静かで過ごしやすくリラックスできたのでぐっすり眠ることができました。今期の発掘調査では先生方や院生さん、上級生の方にまかせきりで自分の勉強不足がよくわかったので、知識と経験を蓄えて自分で考えて、主体的に動けるようになって来年は帝釈峡に戻ってきます。（2年 小川原励）

参加者名簿（Ⅱ期 8月18日～8月24日）

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀
同上 准教授 竹広文明
同上 准教授 野島永
同上 大学院生 石貫弘泰 (D2生)
長井健二 (M2生)
小林昴博・迫田苑子・辻村哲農・藤田親・宮岡昌宣
(M1生)
広島大学文学部学生 板木達也・竹内琢也・谷口早季・細石朋希・三輪宜生・横山瑛一
(3年生)
安部智洋・今福拓哉・小川原励・小林彬・野村友規 (2年生)
愛知教育大学大学教育学部学生 柘植まゆみ・土本真由 (4年生)

人物往来

カメラマン・グラフィックデザイナー 菊井博史 (8/18・19)

陣中見舞い

富永研究科長 金一封
大麻さん・斎藤さん お菓子
大麻さん母子・斎藤さん・松波さん・山手さん・斎藤さん・谷さん
お菓子
加藤さん お菓子
菊井さん スイカ
佐古さん（庄原市教委） 野菜
松谷さんご夫妻（広島市） 惣菜・ビール
順田さんご夫妻 お菓子・ジュース
神石高原町教育委員会 ビール
長井さん 梅干・お菓子
藤野先生 ピオーネ
広島大学文学部支援室 ジュース
松浦さん（蒲刈） 肉とタレ
森田さん（神石高原町教育委員会） 野菜
明賀さん（帝釈） トマト
弥生食堂（帝釈） スイカ

他にも多くの方々に大変お世話になりました。ありがとうございます。

編集後記

第Ⅱ期が終わり、両遺跡とも遺構や遺物が検出され始め、昔の人々の暮らしが復元されつつあります。25日から第Ⅲ期の調査を行なっておりますので、皆さんぜひ、昔の人々と同じ空気を吸いに遺跡へいらしてください。お待ちしております。（編集 辻村哲農）



広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈未渡野田原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページURL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>